談話室

コロナ禍で見えたネットワーク型社会の光と影

現代の社会経済は、人・モノ・金・情報をサプライチェーンなどの物理的なネットワークやインターネットといった電子的なネットワークを介して、時空を超えて高速かつ大量にやりとりすることの効率性を上げながら進化してきた。このようなネットワーク型社会において、お金と情報さえあれば、どこにでも行くことができ、いつでも欲しい商品やサービスをその原産地や提供者の所在地を気にすることなく宅配やWEB経由で手に入れることができる。

しかし、今回のコロナ禍は、人間が生み出したこの効率的なグローバルネットワーク上で高速・大量かつ長距離を行き交う人流や物流に新型コロナウイルスが「便乗」することで、皮肉にも人間がウイルスの拡大攻勢を助ける構図を生み出した。そして、この１年間、都市封鎖、入出国制限、外出自粛、生産・操業停止などにより、グローバルサプライチェーンの途絶や停滞が連鎖的に世界各地の製品・サービスの供給を滞らせた事象も散見された。このような途絶・停滞の連鎖については、今年で10周年を迎える東日本大震災やタイの大洪水でも発生したが、これは高度に効率化されたネットワーク型社会の「光と影」の「影」の部分（脆弱性）と言える。

ところで、日本でもようやくワクチンの供給が開始され、コロナ禍の収束の兆しが見えつつあることから、今後、私たちはウイルスとの共存を目指しつつ、「ニューノーマル」な生活様式や価値観にシフトしながら、「次なるリスク」の発生に備えなければならないフェーズに入った。その「次なるリスク」は、選り取り見取りである。世界経済フォーラム（WEF）の「グローバルリスクレポート2021」では、気候変動による天候変化の激化、自然災害の激化他の環境系のリスクが上位グループを占めている。このようなリスクは、実際、日本でも最近の台風、豪雨、豪雪等の風雪水害の激甚化・頻発化といった目に見える形で顕現化しており、特に人・モノ・金・情報の流れの過剰な集中で、既に日常的な滞留が発生している大都市圏では、災害発生時の混乱を増長させるような「災害感応度」も増加し、被害の連鎖の多様化・長期化をもたらしている。

私たちの日常生活でも、地域内の人間関係や近所づきあいも飛び越し通勤・通

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

学等で移動した場所やWEB経由でアクセスした電子的な「場所」での特定・不特定の人々との交流に限定し、購買・消費も近所の商店を飛び越し、他地域や海外の製品・サービスを宅配やWEB経由で入手したり、同じく販売することが可能となっている状況は、同様の脆弱性を抱え込んでいると言える。

つまり、サプライチェーンやネットワークが途絶した瞬間に、隣近所でも互いの素性も知らず、地域内にどのような商品やサービスがあるのかも知らずに孤立状態に陥る人々が各地域に大量に同時発生することを意味している。これが大規模な広域災害時には、自助もままならず、共助も限定的、そして公助を行うにもバラバラとなった人々の安否確認や救援・保護、生活の復旧・復興支援を行うことが困難な状況に陥る。特に食料に関しては家庭内備蓄を十分にしていない場合、24時間365日食生活を支えてくれていたサプライチェーンの途絶により、自治体や政府からの緊急支援物資に頼るしか選択肢がなくなる。

しかし、2004年の新潟県中越地震では、被災地自らが被災者向けの食事を仕事として提供する「弁当プロジェクト」が立ち上がり、2012年のハリケーンサンディでは、米国ニューヨーク市危機管理局が被災地のレストランの営業可能状況を確認した上で緊急支援物資の配給判断をするといった形で、食料を「プッシュ型」でやみくもに現地に送り付けるのではなく、被災地の復旧・復興に不可欠な経済活動を小さくとも回し始めることがいかに重要であるかを示してくれた。

このように、「五感」で認識できるような社会を構成する最小単位としての地域内で、災害時でも最低限の人・モノ・金・情報が域内循環する「地産地消」のサイクルを改めて再構築することが、「次なるリスク」の発生時にも、孤立の発生を軽減し、自助の有機的なつながりを通じた共助、更には公助をより必要な地区や人々に効率的に供給できるような地域のレジリエンス(しなやかな復元力)の強化や食料や医療も含めた国全体の安全保障につながるはずである。

コロナ禍収束後も、社会経済の復興や成長を求めてネットワークは更に進化するはずであるが、一方で私たちは、その「光と影」の両側面を見据えながら、グローバル、かつローカル(グローカル)な視点でニューノーマルな日々を過ごし始める必要がある。

(名古屋工業大学 大学院社会工学専攻 教授　渡辺研司・わたなべ けんじ**)**

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/